

## 中国の JET 経験者の皆さんと意見交換会を開催しました

北京事務所

### 2013 年 JET 意見交換会を開催

JET プログラムの中国からの参加が 1992 年に始まってから、既に 20 年以上の年月が流れ、現在では 1,100 名を超える JET プログラム経験者が中国各地で活躍しています。当事務所では、クリアと JET プログラム経験者、また経験者同士の連携を深めるきっかけとするため、毎年、経験者の皆さんとの交流の場を設けています。昨年度は、中国 JET20 周年を記念し、北京において、17 の省・直轄市・自治区から JET 経験者や関係者が多数参加のもと、大々的にセミナーを開催しました。今年度は、8 月 21 日から 23 日にかけて開催された「日中地域間交流推進セミナー」に合わせて、当セミナーに参加する JET 経験者 14 名のほか、関係者など合計 24 名参加のもと、「2013 年 JET 意見交換会」を実施しました。当日は当協会から木村陽子理事長が出席し、来賓としては中国外交部外事管理司付吉軍参事官、在上海日本国総領事館から佐治領事に出席いただきました。

### 活発な意見交換を展開

会の始めには、当協会木村理事長、中国外交部付参事官、在上海日本国総領事館佐治領事からそれぞれ挨拶があり、中国 JET が派遣されてから 20 年以上が経過し、1,100 名を超える参加者があること、これら OB の多くが帰国後も各省市政府の対日交流窓口として活躍し、日本と中国の地方交流の架け橋として多大な貢献をしていること等を述べられました。その後、各参加



意見を述べる JET 経験者

者から簡単に自己紹介をしてもらった後、今回のテーマである「日中の地域間交流・相互理解で大事な視点は何か」を基に意見交換が行われました。

意見交換の中で各参加者から、

○現在の日中間の厳しい状況により、仕事の状況も厳しく自信が持てなくなっている。

しかしこういった状況だからこそ、民間交流や地方交流の重要性が更に深まる。

○将来の日中間の交流を担う青少年交流を拡大していくことが大切である。現在若い世代の相互理解が不足しており、人材が不足している。若い人達の相互理解が出来るシステムとしても JET は必要である。

○JET は単なる通訳ではなく、日中の違いが分かったうえでの文化の伝道者であると思う。今後も、お互いの文化や違いを理解しないと本当の意味での相互理解は得られない。そういった「違い」を体験できる交流を推進しないといけない。

など、忌憚のない意見が積極的に出されました。

### JET 経験者を活用した交流の継続・発展を

このほかにも、昨今の日中関係悪化を反映してか日本の姿勢を問う厳しい意見も出されました。しかし、こういう時期であるからこそ、上の意見にあるように、民間・地域間・草の根の交流を継続し更には発展させていくことに対しては参加者一同、共通理解としてあったように思います。また、次世代の日中間の交流を担う若者同士の交流、そして相互理解の促進が重要であるという意見も多くの賛同を得ていました。地域間交流にしても、若者の交流にしても、日中両国の事情をよく理解し、これら日中間の交流をつなぐ「架け橋」としてJET経験者は貴重な存在であると改めて感じています。

JET 経験者からいただいた意見は、今後、「日中の地域間交流と相互理解」を進め、また広げていくうえで、大いに参考になりました。また、本意見交換会を通じて、クリアとJET経験者、又JET経験者同士の交流をさらに深めることができたと思います。

会の最後には記念撮影を行い、当初予定していた1時間半を大きく越える約2時間の有意義な意見交換会は幕を閉じました。



参加者で記念撮影

(川島所長補佐 群馬県派遣)